

## 長崎市の近代都市形成と道路網の整備

長崎大学大学院 学生員○林田幸誠  
長崎大学工学部 正員 岡林隆敏

## 1.はじめに

著者らは長崎市の近代の都市形成史について調査・研究している。長崎市は、近代において、第1次から第3次の港湾改修計画に基づく大規模な埋め立てを行い、市域を拡大させてきた<sup>(1)</sup>。道路網の整備状況が都市形成の骨格であるが、明治期の地図の精度及び、大正以降の軍事要塞都市である長崎市の地図情報の不足のために、長崎市の近代道路網の建設と整備の状況は明らかにされていない。ここでは、長崎近郊の道路建設、長崎市街地の道路網の整備と共に、近代の道路景観の変遷について報告する。

## 2.長崎市から郊外へ出る道路の建設と整備

江戸時代、出島のある長崎は幕府にとって重要な都市であったので、長崎と江戸を結ぶ街道は、整備されていた。江戸中期の長崎市街地とその周辺の地図が写真一1である。明治期、長崎市から郊外に出る幹線道路の整備が行われた。山に囲まれた過密都市であった長崎から郊外へ出るには、いずれの道路も峰の開削が必要であった。近世の長崎から郊外へ出る道路は、江戸時代に完成しているが、どの路線でも近代的な道路は、明治10年代に整備されている。長崎から郊外へ出る主要な道路の建設状況を表一1に示す。また、長崎市から郊外へ出る道路の主要なものを図一1に示す。



## 3.長崎市街地の道路の整備

明治中期、大正期、昭和初期の長崎市の道路網の整備状況を、現写真一1 1700年頃の長崎とその周辺在の地図上に表示したものが、図一2から図一4である。

明治中期（明治20年頃）：幕末から明治初期に外国人居留地周辺に幅4間の道路が整備された。明治15年に、長崎市の主要幹線の長崎街道が近代化された。第1次港湾改修工事に連動して、長崎湾沿いに近代的な浦上街道が建設された。だが、既に完成した都市であった旧市街地の道路は、江戸期と余り変化していない。

大正期（大正9年頃）：第2次港湾改修工事で、長崎湾の湾奥・出島周辺の埋め立てがあり、出島周辺の道路整備、北部の幹線道路の拡幅もあった。旧居留地、市中心及び北部に、大正4年路面電車が表一1 長崎市近郊の道路の建設と整備運行し、大正9年中心部を貫く道路が建設された。

昭和初期（昭和9年頃）：第3次港湾改修工事、上海航路開設、日見トンネルの開通、戸町トンネルの開通のように、現代的な都市施設の技術革新が実現し始めた時期である。本格的な自動車交通を考えた道路の整備が始まった。路面電車の東部拡張で、新大工から蛍茶屋までの道路が作られ、市街地中心部から東部への幹線の整備が昭和9年になされた。

## 4.道路景観の歴史的変遷

収集した写真を道路の機能的な面（幅員、路面、舗装等）と景観

長崎市近郊の道路の建設と整備	
浦上街道	明治10年 時津新道開削 明治10年～11年初春 時津新道開通 明治19年 内坂の開削工事開始
長崎街道	明治13年 幅員2間 (3.6m) の道路に改修 明治14年4月 日見新道開削工事着手 明治15年8月 蛍茶屋～矢上切り通しの開削工事完成 大正13年3月23日 日見隧道工事着手 大正15年4月3日10時半 日見隧道の開通式 延長322m (640m) 碇道の路面幅24尺4寸 (7.3m)
野母港線	明治34年～36年 野母線県道改修 昭和7年2月 戸町隧道起工 昭和8年5月3日午前10時半 戸町隧道竣工式 総延長1183m9 内隧道327m81 其の幅員7m
茂木街道	長崎茂木間 (凡2里 (2km)) 道路巾2間 (3.6m) 明治19年10月 茂木新道起工 明治20年6月28日正午 茂木新道の開道式



図一1 長崎から出る道路

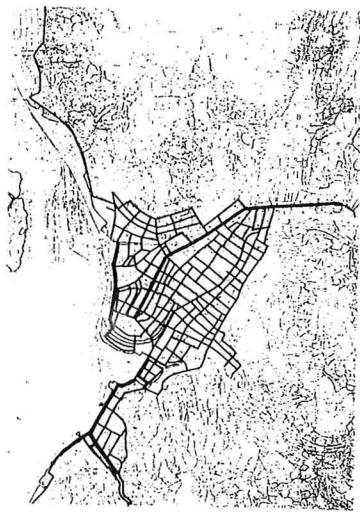


図-2 明治中期



図-3 大正9年頃



図-4 昭和9年頃

的な面（街並み、街灯、側溝、縁石等）から調べた。写真-2は、明治10年から11年初頭に開通した時津街道である。写真-3は、明治15年に完成した日見峠の切通しであり、幅員は4間程度と思われる。写真-4は明治20年に開通した茂木街道の田上峠である。写真-5は明治20年頃の長崎街道の新大工付近であり幅員は4~5間で石畳舗装されている。写真-6は、大正15年に開通した日見トンネルであり、延長640m、幅員は7mである。写真-7は昭和8年に開通した戸町トンネルであり、延長327.8m、幅員は7mである。

### 5.まとめ

この調査・研究では、歴史的資料、新聞、地図等により、長崎近郊と長崎市街地における明治中期から昭和初期における道路の建設と整備の変遷を明らかにすることことができた。また、当時の写真を収集することにより、道路景観の歴史的変遷を示すことができた。

### [参考文献]

- (1) 岡林隆敏、吉田優；長崎港の埋立と近代都市の形成、土木史研究、第12号、P295~304、1992年6月。



写真-2 時津街道



写真-3 日見峠

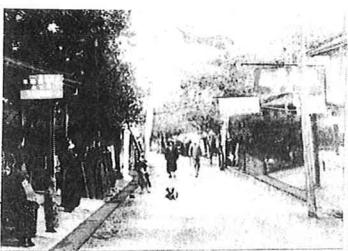


写真-4 田上峠



写真-5 長崎街道

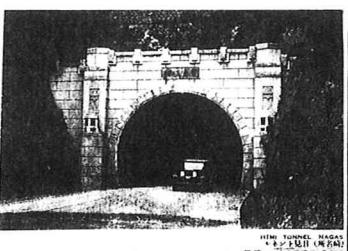


写真-6 日見トンネル

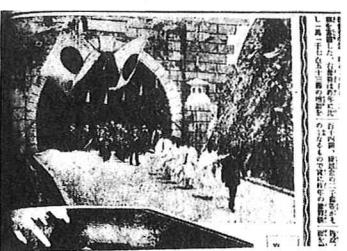


写真-7 戸町トンネル